

教育研修講義

日時:平成27年4月23日(木)午後5時過ぎ～

場所:新王子病院 4F会議室

講師:製鉄記念八幡病院

腎センター部長 柳田 太平 先生

血液透析導入後7カ月にて間質性肺炎の急性増悪にて永眠されたケースです。安静時には感じない労作時呼吸困難の症状があり転入院され、病態により突発性間質肺炎と診断。そして間質性肺炎から肺癌を合併。

入院中の経過を血液検査、CT画像等から詳細な病態の説明でした。また気管内挿管をすることなく気管内挿管と同レベルの高流量、高濃度の酸素を経鼻で投与できるネーザルハイフローを使用。終末期は気管内挿管による外見上の問題やQOLの問題においては、緩和されたのではないかと感じました。

